

kanamoto ■ カナモトエグザミネー
examiner
株主の皆様ならびに投資家の皆様へ



vol.47

第45期(2009年10月期)第1四半期号

役員のご紹介



第44回定時株主総会で選任された取締役ならびに監査役と、同総会終了後に開催した取締役会および監査役会において選任された代表取締役社長、常勤監査役、執行役員をご紹介します。



● 取締役

① 代表取締役社長	金本 寛中*	② 取締役執行役員 経理部長	卯辰 伸人*
取締役執行役員 ⑪ 営業統括本部長 レンタル事業部長	金本 哲男*	③ 取締役執行役員 業務部長	成田 仁志*
⑫ 取締役執行役員 特販事業部長	平田 政一*	⑨ 取締役執行役員 情報機器事業部長 事業開発部長	北方 敬一*
⑬ 取締役執行役員 総務部長	磯野 浩之*	⑩ 取締役執行役員 レンタル事業部北海道地区統括部長	金本 龍男*
⑧ 取締役執行役員 レンタル事業部東北地区統括部長	長崎 学*	⑥ 取締役執行役員 債権管理部長	麻野 裕一*
⑤ 取締役執行役員 海外事業室長	棕梨 直樹*	⑦ 取締役	岡本 雅之
④ 取締役	袴田 美智也		

● 監査役

① 常勤監査役	奥村 敏三	② 常勤監査役	澤田 紳六
⑥ 常勤監査役	金本 栄中	⑦ 監査役	橋本 昭夫
⑤ 監査役	辻 清宏	④ 監査役	大津 秀人
③ 監査役	直井 院		

● 執行役員

情報システム部長	熊谷 浩	レンタル事業部 関東地区統括部長	問谷 悟
----------	------	---------------------	------

(注1)*印の取締役は、執行役員を兼任しております。
 (注2)岡本雅之氏及び袴田美智也氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
 (注3)監査役の橋本昭夫氏及び辻清宏氏及び大津秀人氏、直井院氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
 (注4)役職名は当社におけるもののみを記載しており、一部兼務役職を省略しております。

2009.1

44回定時株主総会を開催しました

去る1月29日、当社本社ビルで第44回定時株主総会を開催しました。当日は100名を超える株主様にご来場いただき、上程いたしました4議案について、満場一致で可決いただきました。

なお、本年度のインターネット議決権行使の状況は名義人数2.9%(議決権数23.2%)でした。株主総会にご参加いただけない株主の皆様におかれましては、インターネット議決権行使をぜひご活用ください。CC

- 1Q** 2008.11
- KE46 上海建工集団が来日、当社を訪問
 - KE46 新型橋梁点検車「橋竜」の稼動を開始
 - KE46 株式会社カンキが相生営業所(兵庫県相生市)を開設
 - KE46 津軽ダム営業所(青森県中津軽郡西目屋村)を開設
 - IR 特別損失の発生について発表
 - IR 平成20年10月期通期業績予想の修正について発表
- 2008.12
- KE46 IR 第11回ノムラ資産管理フェアに出展
 - KE46 IR 第44期(2008年10月期)決算発表
 - IR 内部統制システム構築の基本方針について発表
 - KE46 IR 【東京】機関投資家・決算説明会(アナリスト協会)
 - KE46 IR 【札幌】個人投資家説明会を実施(三菱UFJ証券)
 - IR 矢板営業所(栃木県さくら市)・相馬営業所(福島県相馬郡新地町)を開設
 - IR 剰余金の配当・定款一部変更について発表
- 2009.1
- IR 第44回定時株主総会を開催



- 2Q** 2009.2
- IR 【仙台】個人投資家説明会を実施(三菱UFJ証券)
 - IR 関西ノムラ資産管理フェアに出展
 - IR JAI資産運用フォーラムに出展
 - IR 平成21年10月期第1四半期の有価証券評価損について発表
- 2009.3
- IR 東証IRフェスタ2009に出展
 - IR 平成21年10月期第2四半期累計期間及び通期業績予想の修正について発表
 - IR 【札幌】個人投資家説明会を実施(札幌証券取引所)
 - IR 第45期(2009年10月期)第1四半期決算発表
 - IR 本邦初、排出量取引付コミットメントファシリティ設定
 - IR サンクスフェア2009:中標津(3/28)を皮切りにスタート
 - IR ナラサキリースなど建機レンタル会社4社の子会社化について発表
- 2009.4
- IR 入社式／新人研修
 - IR 野田集約センター(千葉県野田市)を開設



凡例 IR関係 KE46 関連情報をカナモトエグザミナーVol.46に掲載 ※青文字:本号2~5ページに関連記事を掲載

2009.2 仙台、札幌での説明会と3つのIRイベントに出展

小誌で毎号取り上げているIR活動ですが、今四半期も積極的に活動しました。第2四半期に入り、2月10日に三菱UFJ証券仙台支店で説明会を開催した後、13日、14日には関西ノムラ資産管理フェアに、20日にはJAI資産運用フォーラムに出展しました。3月に入ってからも6日、7日に行われた東証IRフェスタ2009に出展し、10日には札幌証券取引所主催の札幌上場会社合同説明会に参加いたしました。

今後はIRフェアや説明会に加えて、当社ホームページ(www.kanamoto.co.jp)を通じてIR活動の強化を図っていきます。サイトの全面リニューアルなども計画ですので、今後の展開にご期待ください。



100名以上の個人投資家が来場した札幌上場企業合同説明会の様子

本邦初、排出量取引付きコミットメントファシリティを設定

3月26日既報のとおり、当社は本邦初となる「排出量取引付きコミットメントファシリティ」を設定いたしました。

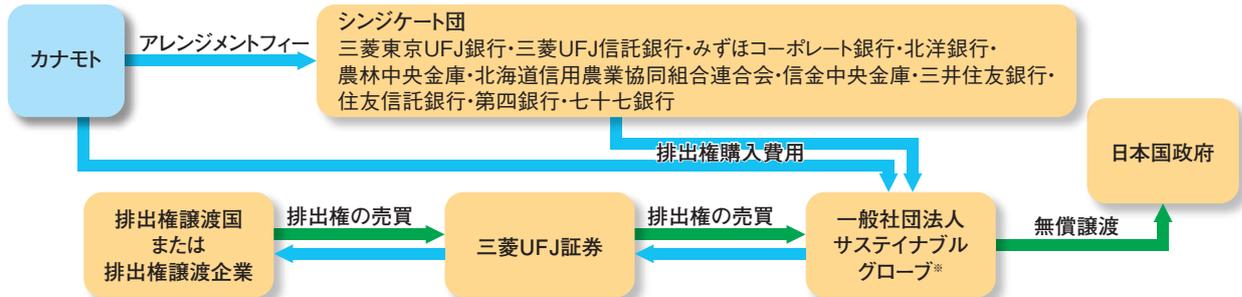
排出量取引は、コミットメントファシリティを設定する際に発生するアレンジメントフィー（組成手数料）から、当社と三菱UFJ銀行の両社が、排出量取得のための資金を拠出して、三菱UFJ証券を通じてインドの風力発電プロジェクトでの排出権を取得し、その排出権を日本国政府へ無償譲渡します。

従前から事業活動を通じての環境配慮として、環境規制対応建機の積極導入や、営業車両への低排出ガス車導入など、さまざまな取り組みを実施していますが、今回は、管理面からの環境配慮型経営施策となります。

これからも業績拡大とあわせてCSR活動にも一層取り組み、企業としての社会的責任を存分に果たすことで企業価値の拡大を目指します。☑

■排出量取引の概要

融資枠設定金額:30億円／契約調印日:2009年3月26日／契約期間:364日間



※サステナブルグループは非営利団体であり、排出権の取得から無償譲渡に関わる事務処理等の委託をしております。

ナラサキリースなど建機レンタル4社を子会社化

3月31日に発表のとおり、当社はナラサキ産業株式会社（東証2部:8085 本社:札幌市）から、同社の子会社である「ナラサキリース株式会社」、「東京ナラサキレンタル株式会社」、「秋田ナラサキレンタル株式会社」、「青森ナラサキレンタル株式会社」について、株式を譲り受け子会社化いたしました。

上記4社はいずれもトンネル工事・濁水処理分野に強みを持

つ建機レンタル会社です。今後はその得意分野を生かすとともに、連携を取ること互いのノウハウを補完するなど、相乗効果を発揮して一層のシェア拡大に努めていきます。☑



新たにカナモトグループの一員となったナラサキリースの帯広営業所

関東地区の大型拠点、野田集約センターを新設



野田集約センターの工場棟(左)と事務所棟(右)

4月10日にカナモト160拠点目となる野田集約センター（千葉県野田市）が開所いたしました。

同集約センターは国道16号に近接する県内外への良好なアクセス環境を生かし、首都圏へのデリバリー基地

として機能する新拠点です。加えて、当社が強みを持つ基礎・地盤改良機械および機材などのレンタルアイテムの集約センターも兼ねています。また、野田市内に所在していた野田営業所と、イベント向けレンタルを展開するイベント部門を当敷地内にそれぞれ移設いたしました。引き続き厳しい経営環境が続くと想定されますが、カナモトでは従前からの重点地域である首都圏、中京、関西への拠点展開を引き続き進めてまいります。☑

2009.3

今年も開催、カナモトサンクスフェア2009

今年も各地の営業所でサンクスフェアを開催いたします。北海道を皮切りに各地で開催を予定しており、3月28日には中標津で、4月11日、12日に釧路で、4月18日、19日には北見と千歳でそれぞれ開催しました。春本番とはいえ、まだまだ肌寒い北海道。中標津の開催日には降雪も見られましたが、多くの地元の方々にご来場いただいたとのこと、社員一同、心より感謝申し上げます。

このカナモトサンクスフェアは、どなたでもご来場いただけるイベントです。開催済の地域の皆様、お知らせ遅くなりまして申し訳ございません。開催日程や会場につきましては当社ホームページ(www.kanamoto.co.jp)で逐次ご案内させていただきますので、ご確認のうえお近くでしたらぜひご来場ください。☑



2009.4

45名の新入社員を迎えました

4月1日、札幌第一ホテルで2009年度入社式が執り行われ、45名のフレッシューズが新たに入社しました。入社式では社長の金本寛中から「晴れてカナモトの一員となった皆さんを熱烈に歓迎する。これからの人生の長丁場、楽しく仕事をし、かつその中で学び、カナモトにとって無くてはならぬ人材に成長して欲しい」と訓示し、新入社員代表として営業推進室配属の鈴木和人社員が「まずはカナモトの戦力として認めていただけるように日々精進し、建機レンタルの世界に挑戦するチャレンジャーとしての誇りを忘れることなく、熱いフロンティア

精神で突き進む所存です」と答辞を述べました。

新入社員は、入社式当日から約3週間にわたって新人研修を受講した後、それぞれ配属される事業所での業務に就きます。☑



答辞を述べる鈴木和人社員

とってもいいモノ・読者プレゼント

巻末のアンケートはがきをご返送いただいた方の中から、抽選で100名様にノベルティグッズを差し上げます。

今回のプレゼントは、リサイクルプラスチックを多用したパイロット社製のカナモトオリジナルボールペン「PATINT(パティント)」。

インクの色は黒1色とシンプルながらも、さまざまな機能が隠されたボールペンです。“10万回挟んでも壊れない*”リフトクリップの耐久性に合わせて、インク量も従来のノック式に比べて45%も増量されています。

※パイロット社試験データによる

ご応募の締切は5月29日(当日消印有効)です。
なお、当選の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。



色のご指定はできませんので、あらかじめご了承ください

第45期第1四半期決算の概況

[2008(平成20)年11月1日から2009(平成21)年1月31日まで]

●経営成績(連結)の進捗状況と業績予想

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期(当期)純利益 (百万円)	EPS (円)
45期第1四半期	17,441 (－)	669 (－)	607 (－)	△105 (－)	△3.20
44期第1四半期	18,375 (△2.5)	1,016 (△53.2)	974 (△53.9)	499 (△69.2)	15.20

前回発表予想数値(2008年12月5日発表)

第2四半期連結累計期間	34,900 (△6.3)	2,100 (△28.0)	1,900 (△32.9)	1,000 (△32.2)	30.45
通 期	68,200 (△1.7)	2,600 (16.7)	2,200 (8.5)	1,000 (55.3)	30.45

今回修正予想(2009年3月9日発表)

第2四半期連結累計期間	32,300 (－)	780 (－)	580 (－)	△130 (－)	△3.96
通 期	63,900 (△7.9)	510 (△77.1)	90 (△95.6)	△800 (－)	△24.36

(注1)売上高、営業利益、経常利益、四半期(当期)純利益における括弧内の数字は、対前年同四半期増減率(%)を示しております。

(注2)平成20年12月5日発表の第44期決算短信に記載しました第45期第2四半期連結累計期間および同通期の業績予想について、平成21年3月9日に修正を発表しました。

(注3)45期は四半期報告制度の適用初年度であり、44期まで適用される会計基準や用語、様式および作成方法に関する規則等が異なるために対前年同四半期増減率は「－」に記載しています。

第1四半期の業績結果

当社グループでは建設業界が置かれている極めて厳しい事業環境のもと営業強化に努めましたが、業績は期初から事業計画を下回る推移となりました。第1四半期の建機レンタルの受注状況は各地域でシェアは伸長しましたものの、絶対的建設需要の減退、さらには全国的なレンタル単価の下落傾向から売上高は当初の計画を大きく下回りました。また、中古機売却は当初から相当量抑制した計画としており、当初計画台数だけの販売に留めていること、さらに世界的景気停滞の影響から市況が低迷しているため、海外向け中古販売による収益は縮小しました。

これらの結果、2009(平成21)年10月期第1四半期の連結業績につきましては、連結売上高が174億41百万円となりました。一方、利益面につきましては、建機レンタル収入の減少が直接的に影響して連結営業利益は6億69百万円、連結経常利益は6億07百万円と、前第1四半期連結会計期間と比較して大きく減少しました。また、急激な株価下落の影響から投資有価証券評価損4億84百万円を特別損失に計上したこともあり、当第1四半期連結純損失が1億05百万円と、不本意な結果となりました。

事業種別セグメントの業績

<建設関連事業>

建機レンタルの地域別売上高は、北海道地区・東北地区とも地域シェアを伸長させたものの、両地域とも公共事業減少による市場縮小傾向は変わらず、景況悪化による民間設備投資の凍結などあって、当第1四半期の売上高は北海道地区が対前年同期比4.9%減、東北地区は同7.0%減でした。関東地区は、羽田空港等大型プロジェクトのほか、連結に加わった東洋工業株式会社との営業上の相乗効果もあり、同5.0%増となりました。近畿中部地区は引き続き需要が伸び悩む兵庫県に加え、これまで好調であった愛知県が減速要因となり

同4.3%減となりました。九州地区は北部九州で堅実な伸長を示しましたが南部九州の需要減が足を引き同8.9%減でした。これらの結果、同事業分野における当第1四半期連結会計期間のレンタル売上の対前年同期比は3.8%減となりました。また、同事業分野における当第1四半期連結会計期間の販売売上は、部品・油脂類の販売が減少したことと、また前述のとおり海外向け中古機販売が減少したため、同8.3%減となりました。これらの結果、建設関連事業の当第1四半期連結会計期間の売上高は162億74百万円、営業利益は6億71百万円でした。

<鉄鋼関連事業>

鉄鋼製品販売事業は、道央圏の建設需要が续かず単価も下落しましたが、当第1四半期連結会計期間の売上高は10億52百万円、営業利益は3百万円となりました。

<情報通信関連・その他事業>

情報通信関連事業は、ユーザーの経費削減傾向からレンタル・中古販売ともに減少し、当第1四半期連結会計期間の売上高は1億13百万円、営業利益は7百万円となりました。

特記すべき事業展開と拠点新設閉鎖の状況

- (1) 当第1四半期連結会計期間における拠点の新設閉鎖は、11月に津軽ダム営業所（青森県中津軽郡西目屋村）、相馬営業所（福島県相馬郡新地町）、矢板営業所（栃木県さくら市）の3拠点を新設、また閉鎖はありませんでした。なお、東洋工業株式会社（本社：東京都台東区）につきましては、当期から損益についても連結対象となっております。
- (2) 他社に先駆けて導入した省エネルギー、リサイクルを主軸にしたレンタル製品（ハイブリッドトラックやLED式夜間照明機器、リフレクターLEDランプなど）が伸長しております。
- (3) 海外で展開する上海金和源設備租賃有限公司（邦文名称：上海金和源設備レンタル有限公司、本社：中国上海市、非連結子会社）は、初めて一年を通じた決算を終えましたが、当初予想を上回る業績結果を得ました。

業績予想の修正の理由 2月23日付で有価証券評価損について、3月9日付で業績予想の修正について発表しました。

〔第2四半期連結累計期間の業績予想〕

当社の第1四半期の日本経済は、昨秋以降の世界同時不況により国内でも企業の収益環境が急激に悪化、特に建設業界では建設工事が官需、民需とも低迷し、その状況下で建設関連の企業倒産が過去最高を記録するなど、極めて厳しい状況となりました。

当社においてもこの状況に変わりはなく、第1四半期の建機レンタルの受注状況は各地域でシェアは伸長しましたものの、売上高としては当初の計画を大きく下回る結果となりました。一方、中古機売却につきましては当初から相当量抑制した計画としており、当初計画台数だけの販売に留めていること、また世界同時不況による中古建機価格低迷もあって、海外向け中古販売による収益は縮小しております。

現状、未だ政局は不安定で景気浮揚策としての財政出動も遅れており、現状では景気回復は暫く見込めないものと

判断されます。当面の間は建設需要の低迷が続き、当社の建機レンタル受注環境も回復が遅れるものと予想されます。また、これらの状況から、証券市場においても暫くは現状の下落傾向が引き続くものと思われます。これらの状況を踏まえて第2四半期累計業績予想を修正いたしました。

〔通期の業績予想〕

第2四半期累計期間までの経営環境は現段階では通期においても大きく変わることはないと判断されます。また、2月23日付発表の有価証券減損状況も期末までの回復が困難と予想されることから、期末業績予想も合わせて修正いたしました。

■ 連結財務諸表

連結損益計算書

(単位:百万円)	第44期第1四半期 (2007.11.1~2008.1.31)	第45期第1四半期 (2008.11.1~2009.1.31)
① 売上高	18,375	17,441
売上原価	12,807	12,417
売上総利益	5,567	5,023
販売費及び一般管理費	4,551	4,354
② 営業利益	1,016	669
営業外収益	92	87
営業外費用	133	148
③ 経常利益	974	607
特別利益	36	22
特別損失	45	523
税金等調整前四半期純利益	965	106
法人税、住民税及び事業税	400	212
法人税等調整額	46	△55
少数株主利益	19	55
④ 四半期純利益	499	△105

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	第44期第1四半期 (2007.11.1~2008.1.31)	第45期第1四半期 (2008.11.1~2009.1.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	572	2,697
投資活動によるキャッシュ・フロー	△410	△1,359
財務活動によるキャッシュ・フロー	△129	2,137
現金及び現金同等物の増加額	32	3,475
現金及び現金同等物の期首残高	17,213	17,566
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	742	—
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	24
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,989	21,066

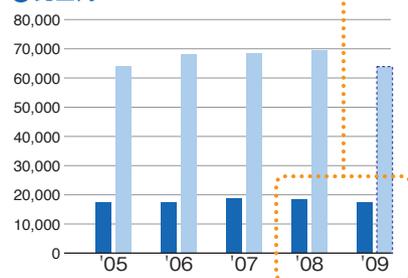
Point

世界的な景気後退の影響で需要が減少する中、関東を除く各地でレンタル売上が対前年を下回る結果となり、中古建機販売についても当初計画どおりの販売台数に留めたことから、売上高は対前年第1四半期比で9億34百万円減少しました。

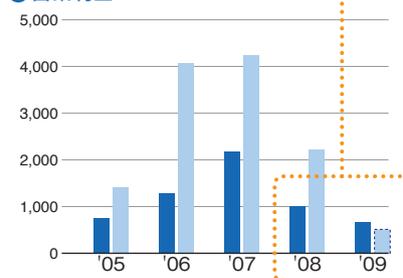
また、売上高が減少したことによる利益率の低下によって、営業利益、経常利益とも前年を下回る結果となりました。

■ 第1四半期 ■ 通期 ■ 予想値 単位:百万円

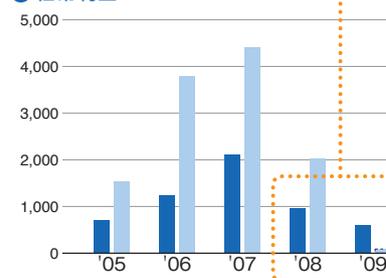
① 売上高



② 営業利益



③ 経常利益



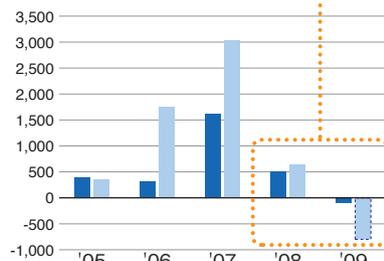
連結貸借対照表

(単位:百万円)	第44期第1四半期 (2008.1.31)	第45期第1四半期 (2009.1.31)
(資産の部)		
流動資産	35,972	37,784
固定資産	52,977	61,034
有形固定資産	45,997	55,127
無形固定資産	1,145	717
投資その他の資産	5,835	5,189
⑤ 資産合計	88,950	98,819
(負債の部)		
流動負債	27,026	30,937
固定負債	22,461	30,153
負債合計	49,488	61,090
(純資産の部)		
株主資本	37,970	37,350
資本金	9,696	9,696
資本剰余金	10,960	10,960
利益剰余金	17,333	16,716
自己株式	△20	△23
評価・換算差額等	1,217	67
その他有価証券評価差額金	1,217	67
少数株主持分	273	310
⑥ 純資産合計	39,461	37,728
負債純資産合計	88,950	98,819

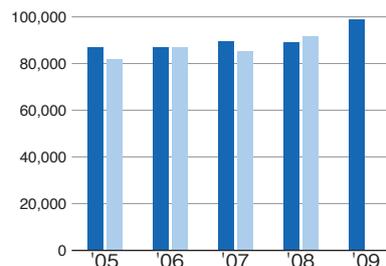
Point

営業利益、経常利益までの減少に加えて、当四半期に特別損失として投資有価証券評価損484百万円を計上したことによって、四半期純利益は105百万円の損失となりました。

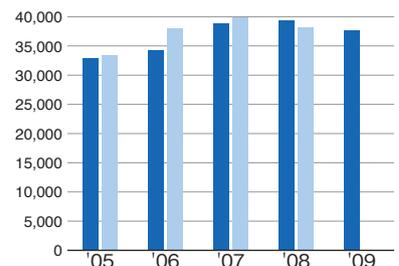
④ 四半期(当期)純利益



⑤ 総資産



⑥ 純資産



株主様からのご質問に答える

Q & A コーナー

いつもアンケートハガキをご返送いただきありがとうございます。皆様から頂戴したご質問にお答えするのがこのQ&Aコーナーです。

ご意見、ご要望がございましたら、巻末のハガキにご記入のうえ、ご返送ください。

Q 業績予想の修正を見て、売上高の減少率に比べて、営業利益の減少率がかなり大きいのはなぜですか？

A 当社が主力としている建機レンタル事業は、売上原価に占める固定費部分が相対的に大きく、売上が上がらなくても（レンタル貸出で稼動しなくても）、減価償却費などの費用が発生するために、利益は大きく減少します。

一方、商品販売などは、売上が減少するとその分仕入れも減少することから、売上の減少が利益に与える影響は、レンタルに比べるとそれほど大きくなりません。

当社では、レンタル事業で利益を確保するために、レンタル需要の動向を考慮しながら建機の入替えや増強、中古売却などを柔軟に行っています。📄

Lineup 取扱商品のご紹介

今回は、当社の主力レンタルアイテムとしてさまざまな現場で活躍する仮設ユニットハウスの新商品「新型ハウスRシリーズ」（カナテック製）をご紹介します。

カナモトのレンタルアイテムの中でも中核を担う仮設ユニットハウスに、このたび新型「Rシリーズ」が登場しました。

RC（連棟）タイプは、端部ユニットとセンターユニットが2種類ずつあり、向きや組み合わせが自由に選べるうえ、風除室やキッチン、トイレ、庇（ひさし）など取り付け、取り外しが容易にできる拡張ユニットをご用意しています。さらに、室内の蛍光灯をシングルからダブルにしたことで明るさも格段にアップ。外観も吊環の形状、位置を変更し見えないようにするなどシャープに仕上げています。

RS（単棟）タイプは、従来よりも天井を高くすることで居住性が向上、実際に使用すると一目で広さの違いを実感できます。また、吊環が着脱できるのでスマートな外観にすることも可能。庇などの拡張ユニットも充実しています。

この新型ハウス「Rシリーズ」はすでに販売を開始しておりますが、4月以降は順次、各地のカナモト営業所でレンタルアイテムとしても活躍します。📄

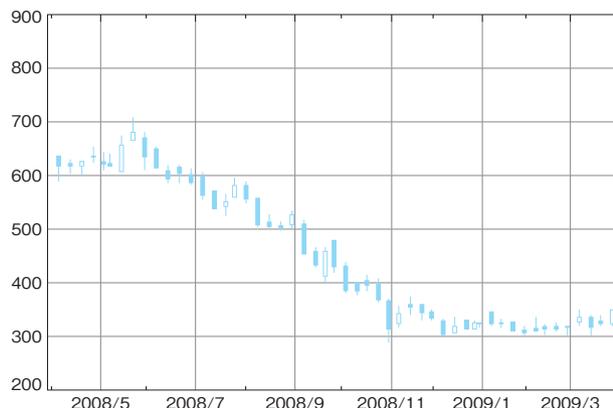


新型の「Rシリーズ」は構造柱を表面に出すことで、従来の製品に比べてすっきりとしたデザインになっています。外階段下部に設置されているのが、Rシリーズの最大の特長である拡張ユニット。右の写真は風除室ユニット装着時の内観。



キッチンユニット装着時の内観。十分な広さがあり、使いやすさを重視した構造になっています。

株価チャート (週足)



株価および売買高 (東証分のみ。単位:円、出来高は千株)

	始 値	高 値	安 値	終 値	出来高
2008年4月	620	653	602	635	1,142
5月	635	709	610	637	1,571
6月	650	656	587	599	1,917
7月	601	601	528	559	1,001
8月	579	585	500	527	754
9月	510	516	400	427	1,456
10月	435	439	291	314	3,705
11月	325	372	320	336	1,314
12月	329	335	301	326	818
2009年1月	345	345	302	313	1,011
2月	314	335	302	320	616
3月	330	352	300	333	882

株主メモ (2009年2月1日現在)

資 本 金	96億9,671万円(払込済資本金)
発 行 株 数	32,872千株(発行済株式の総数)
事 業 年 度	11月1日から翌年10月31日まで
株 主 総 会	毎年 1月中
同総会議決権行使株主確定日	毎年 10月31日
期末配当金受領株主確定日	毎年 10月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年 4月30日
公 告 の 掲 載	当社ホームページ、日本経済新聞*

*当社公告の掲載につきましては、当社ホームページ(<http://www.kanamoto.co.jp>)または<http://www.kanamoto.ne.jp>に掲載いたします。

なお、やむを得ない事由により、ホームページに公告を掲載することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
同 郵 便 物 送 付 先 及 び 電 話 照 会 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 電話 0120-232-711(フリーダイヤル)

株券の電子化についてのお知らせ

株券電子化に関する詳細につきましては、証券決済制度改革推進センターのホームページに掲載されている「Q&A(<http://www.kessaicenter.com/kaikaku/kabuken10aa.pdf>)」等をご参照ください。また、株券電子化に関するご質問・ご相談は、下記までお問い合わせください。

■お問い合わせ先

「株券電子化」なんでも相談窓口(株券電子化コールセンター)
TEL.0120-77-0915(フリーダイヤル 平日・土曜/9:00~17:00)

※株券電子化コールセンターは、株式会社証券保管振替機構、日本証券業協会、株式会社東京証券取引所が共同で運営する株券電子化についての相談窓口です。

● 編集後記 ●

株式会社に改組後46年目にして初めて、最終損失予想という辛い発表となりましたが、「損失なんて毎度の事」「ウチは会社が無くなった」等々、一度の損失予想で落ち込むという業界の友人達の励ましの言葉と、原監督率いる侍ジャパンのWBC連覇の朗報に救われた3月でした。

WBCは北京五輪の雪辱戦であり、優勝が必須条件でしたから、原監督にとっても相当な重圧だった筈。にも拘らず、選手、コーチ、裏方のスコアラーなど、全員の力を同じベクトルに向かわせた采配は、名監督と謳われた父親譲りの血統なのでしょう。実に素晴らしかった。

我ら日本丸の指揮官も脈々たる方々なので、目先の選挙に感けてないで、将来を見据えた采配で存在感のある国作りを願いたい処です。

当社を顧みますと、社員を束ねる役員も厚みを増し、トップが描く将来像に向けて、一丸となって逆境を乗り越える決意で駆け回っております。引き続きご支援をお願いいたします。 **ka**

r100
古紙配合率100%再生紙を使用



本誌は、再生紙と大豆油インキを使用しております。



株式会社 **カナモト**

(東証一部・札証 証券コード: 9678)

〒060-0041 札幌市中央区大通東3丁目1番地19
Tel : (011) 209-1600 (大代表)

www.kanamoto.co.jp